

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



地域と社会が共創する『SDGs未来都市』

SDGsの達成には、地域社会の活性化が不可欠です。「SDGs未来都市」は、地域ごとの課題を解決し、住民の生活の質（ウェルビーイング）を向上させるための取り組みとして注目されています。今回のニュースレターでは、最新情報を交えながら、この「SDGs未来都市」が果たす重要な役割についてお伝えします。

SDGs未来都市とは？

SDGs未来都市とは、日本政府が持続可能な開発目標（SDGs）を地方自治体レベルで推進するために、特に優れた取り組みを行う都市や地域を選定したもので、地方自治体がリーダーシップを発揮し、地域における持続可能な社会の実現を目指す取り組みです。自治体は住民や企業、学校などと連携し、環境保護、エネルギー効率向上、社会的包摂、経済成長を考慮した施策、再生可能エネルギーの導入や地域産業の振興を推進します。また、成功事例を他地域と共有することで全国的なSDGsの達成を支援した優れた地域は「自治体SDGsモデル事業」に認定されます。

最新！2024年度 自治体SDGsモデル事業

2024年度の自治体SDGsモデル事業に選定された事業の中から、長野県安曇野市の取り組みをご紹介します。

『自然、文化、産業が響き合う 安曇野共生プロジェクト』

2024年、長野県安曇野市による取り組みが「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」をW受賞しました。具体的な取り組みには、以下のような活動が含まれています。

1. 里山再生活動

「さとぷろ。」というプロジェクトを通じて、地域の里山資源を活用し、木材やジビエ製品の開発、アウトドア体験を提供しています。これにより、地域産業の活性化と自然保護を同時に推進しています。

2. 自然保育

子どもたちが自然環境の中で学べる保育の提供を通じて、次世代の環境意識を高めることを目指しています。

3. アーティスト・イン・レジデンス

地域の文化を育むため、アーティストが滞在できる拠点を整備し、地域住民との交流の促進をしています。

4. 脱炭素化

地域課題である『きのご廃培地』を活用しバイオマスボイラー用の固形燃料として生成するなど地域脱炭素化をすすめています。

安曇野市はこれらの取り組みを通じて、「経済」「社会」「環境」の三側面で相互に良い影響を与え合いながら、地域全体の持続可能性を高めることを目指しています。

持続可能な社会の実現に向けて

SDGs未来都市として選定された自治体の取り組みは日々深化しています。特に安曇野市のような、自然、文化、産業が一体となり地域の独自性を生かした持続可能な発展が進められています。このような取り組みには、地方自治体のリーダーシップが必要不可欠です。今後、他地域に広く共有されることで、全国的な拡がりに大きく貢献することが期待されます。

シェルグループも、地域や企業と一体となるプロジェクトを組成し、持続可能な都市の創造を目指していきたいと思っています。



害蟲展season5を終えて

8thCALでは、害虫・害獣を含めたすべての生き物のいのちを考え、人と自然が共存できる『持続可能な環境』を目指し、“棲み分け”という考え方を社会実装すべく、活動しています。その一環として、虫に関する認識を改める啓蒙活動アクション、『害蟲展』を年一回開催しています。今年で記念すべき5周年を迎え、皆さまのご支援のおかげで、無事に全日程を終了することができました。

今回は、昨年の約3倍もの作品応募をいただき、会期中も多くの方々にご来場いただきました。SNSを通じて害蟲展を知り、興味を持ってお越しいただいた方々や、特定の作家様の作品を目当てにご来場くださった方々も多く見受けられました。回を重ねるごとに、ご応募いただく作品の深みが増し、さらにSNSでの拡散も広がっていることを実感しています。

意識の変化について

害蟲展season5は東京・大阪・福岡の3拠点で開催し、各会場では来場者の皆様にアンケートを実施しました。その結果、「虫は苦手」と回答された方々の中で、「展示会を通じて害虫・害獣に対するイメージが変わりましたか？」という問いに対し、80%以上の方が「変化があった」とお答えいただき



写真：大阪会場（箕面昆虫館）にて、作品を鑑賞されているご家族。



写真：スポンサー企業の紹介パネルと、ご協賛品の昆虫ガチャ

ました。いただいたコメントの中には、「人が『害』と決めつけているだけで、彼らもそれぞれの営みの中で生きていると感じた」「虫が意外とかわいく思えた。これからはもっと優しく接したい」といった声がありました。害蟲展の趣旨の一つとして、「害虫と呼ばれる生き物の存在意義を考え、その概念を見直す」というテーマがありますが、皆様からの温かいご感想からも、私たちのメッセージが作品を通じてしっかりと伝わっていることを実感することができました。

害蟲展season5を振り返って

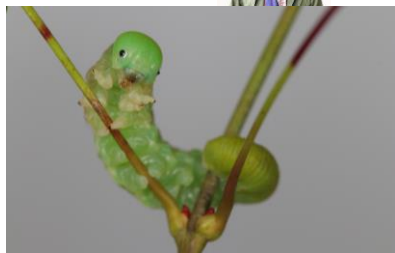
今回の害蟲展Season5が無事に成功を収められたのは、ひとえにスポンサーの皆さま、ご応募いただいた作家の皆さま、そしてご来場くださった皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

今後も、害蟲展を通じて多くの共感者を増やし、「持続可能な環境」の実装に貢献できるよう努めて参ります。来年もseason6を開催できるよう、一層努力してまいりますので、どうぞご期待ください。

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
箕面公園昆虫館館長



ヨウロウヒラクチハバチの幼虫

(養老平口葉蜂)

ハチ目コンボウハバチ科

科学名：Leptocimbex yorofui

ハバチ・キバチ類（広腰亜目）は針を持たない原始的なハチの一群で、捕食寄生性のヤドリキバチ科を除き幼虫は植食性。ヨウロウヒラクチハバチの寄主植物はモミジの葉で、10～11月ごろに大きく育った幼虫を見かける。ハバチの幼虫の眼はチョウ目とは異なり1対の単眼で構成されているのでより可愛く見える。

Information

●最新リリース情報

8thCALがトコジラミに関する実態調査を実施しました！

→ <https://ur0.jp/OqDwY>

シェルグループの新サービス「トコジラぬ」をリリースしました！

→ <https://ur0.jp/vd5EN>

●Pick up 展示会・セミナー情報

企業向け生物多様性セミナー2024 ※参加費無料

日時：2024年11月28日（木）12：00～13：00

詳細： <https://ur0.jp/eT0o5>

ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO

（※シェル商事が出展します。）

会期：2024年11月20日（水）～11月22日（金）

会場：東京ビッグサイト 東1-5ホール（東京都江東区有明3-11-1）

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を
配信中です。

